九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No. 324
2018（平成30）年12月 1日（土）発行

「（日本政府は）国民の声を無視し、被爆者と国民を裏切っている。無数の人間を大量虐殺する用意があるという（核抑止論の）戦略に頼り切っているが、誤った幻想だ」「日本人は行儀がよく、政治家と話すのは自分たちの仕事じゃないと思っている。沈黙を続けるということは悪い政治を続けさせるということ」（**カナダ在住の被爆者・ノーベル平和賞受賞の サーロー節子さん（86）、11月23日広島市の母校で講演**）

＜来年1月13日（日）13時から、南相馬市成人式＞
再び本会が『憲法』小冊子を新成人に手配りします

▲1971（昭46）年5月に旧原町市が発行した『憲法』冊子。大きさ7.7×10.8ｃｍ、64ページ。表紙がエンジ色。来年もこの手配りを再開します。

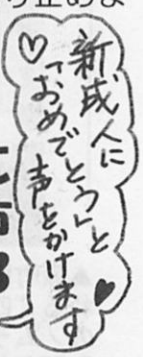
■**「はらまち九条の会」**では、2008年から2016年までの9年間、南相馬市成人式で**『憲法』冊子＜左＞**を手配りしてきました。

■2016年5月に南相馬市が新しく**『日本国憲法』冊子**を作成し市の全世帯に配布し、2017年・2018年の2年間の成人式では、市当局が新**『憲法』冊子**を新成人用の大封筒に一括して入れる形で配布。

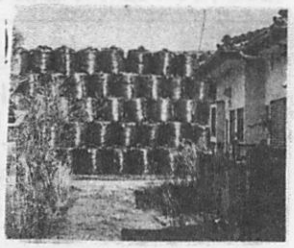
■でも、来年2019年成人式での**『憲法』冊子**の配布を取り止めました。2020年からの再配布をお願いしたいものです。

◆そこで本会では、来年1月の成人式に、以前のように『憲法』冊子を新成人に手渡すことにしました。

○来年の成人式の「憲法」手配りにご協力できる方は、会場の南相馬市民文化会館（ゆめはっと）前に、1月13日午前11時半にご集合ください！



被災地関連の 話題の新刊



日野行介『除染と国家 21世紀最悪の公共事業』 集英社新書￥860＋税

日野は毎日新聞記者。これまで『福島棄民フクシマ5年後の真実』などの著書で、原発事故を通してあぶり出た、国や県、政治家や官僚たちの、国民や県民を欺瞞する姿を暴く。除染の幻想・汚染土と共存の被災民・除染先進地の伊達市・汚染土再利用の底なしの無責任・誰のために何のための除染だったのかなど。原発事故で、除染でも愚弄され続けている福島県民の現実です。

青木美希『地図から消される街』 講談社現代新書 ￥920＋税

青木は気鋭の女性新聞記者。朝日新聞の原発事故検証企画「プロメテウスの罠」に参加し注目された。除染も終了し、住宅支援も打ち切られ、何事も無かったかのように、もう避難していることが悪いような風潮です。除染の欺瞞や、また被災市町村や避難住民、特に母親や子どもたちの苦悩を描く。11月29日発表の「平和・協同ジャーナリスト基金賞」で奨励賞を受賞。

二上英朗編著・三瓶宝次監修『三瓶町議、奮闘す―浪江町津島の記録―』 動輪社￥2500

浪江町議だった三瓶宝次さんの、大震災と原発事故に翻弄される浪江町や浪江町津島の記録。原発立地町でない浪江町には、国や政府から何の連絡も指示もないまま放射能物資が降り注ぐ津島地区に放置されました。郷土史家で本会会員二上英朗氏の執筆編集の貴重な力作です。

鈴木安蔵博士の憲法論文集（復刻） 村山正晃編著『鈴木安蔵博士憲法論文集 比較憲法史1936年』『 同 明治憲法と新憲法1947年』『 同 法についての考察1953年』（株）関西共同印刷所発行 最近復刻出版され、小高区浮舟文化会館にも寄贈されました。

○「私の戦争体験」№38は、野村靜子さんの戦争体験・その②です。

私の戦争体験 38 その2

私が伝えたいこと ②

南相馬市原町区・会員　野村靜子

帰ってこなかった特攻隊員

特攻隊の人たちが、いよいよ出撃のとき、原町の上空を飛び、世話になった家の屋根の上を三度旋回してから行くっていわれていた。汽車で出ていくときは、真っ暗な夜や、朝早く真っ暗なうちに、原ノ町駅から九州の知覧に向いました。うちの父と母と姉とで駅で見送って・・・涙、涙で見送ったんですよ。

小川少尉という人は、もう帰ってきませんでした。何年か経って、母も九十歳になったころ、その小川少尉の遺族がうちに訪ねてきました。母と会い「ここにうちの小川がきて、みなさんとわずかな間でも家庭の味を味わって死んだと思うと慰められます」と言ってました。

今の若い人や学生たちに、「これはあなたたちには教科書の中の歴史かも知れないが、私にとっては現実の話なんですよ」と言いました。そうしたら全然そういうのはわからないって。

山寄りの高倉に疎開

ある時、姉に「戦争はどういうことなの」と聞くと、お店で売るものがなくなり、統制経済で品物が配給になり、B29も「ビューン」って飛んで来るなど、いろいろと話してくれました。

原紡（原町紡織工場）が空襲にあい町も危険ということで、家族は高倉の高橋ちゅうぞうさんという家に疎開しました。おばあさんがバスケットに卵などを、お茶筒に貴重品だった塩や砂糖を入れて、母がリヤカーに荷物を積み、姉が押して、高倉の奥まで避難したの。一晩中ずっと歩いたんですよ。歩いても歩いても遠くて、大変怖かったって姉が言っていました。その時私は三、四歳で、山の子どもたちと「ぶくぶく」という鬼ごっこで遊んでいたりで、戦争の実感はあまりありません。ただアメリカの攻撃機が飛んできたときは、物干しの白いシーツなどは目立つから取り込めーと、みんなで取り込んだのは覚えています。

また、私は両親に「なんで戦争になるのに反対しなかったの？」と聞いたら、「当時ラジオなんて裕福なところだけで、戦争の情報などは全く分からなかった。おしんの世界（笑）でした」と。

▲原町区の駅通りと旧６号線が交わる“四つ葉”にあった野村さんのノムラ商店のネオンサイン。昭和30年代の原町の名物でした。

夫は仙台空襲にあい・・・

私の主人の野村昭治郎は、昭和九年生まれです。仙台に住んでいたので、終戦間近の昭和二十年七月十日の仙台大空襲にあいました。町は全部焼けて、爆撃でやられた死体をいくつも見たそうです。主人も、防空頭巾や服から出ていた腕や顔を火傷し皮膚が薄くなって、今でもなんだか、陽に当たると赤い顔になるんですよ。

戦争っていうのは、人間が人間でなくなるって言いますよね。アメリカ人と日本人も貴重な命ですが、戦争になれば、兵隊さんだけでなく普通の人の命もたくさん犠牲にしたことを、きちんと伝えなければならないですね。

歴史学習は現代史から始めては

今の学校の歴史学習は、縄文時代から弥生時代、何時代と順に習うんでしょうけど、私は逆に現代史から過去に遡って学習したほうがいいんじゃないかと思っています。今のうちに生の声、広島の語り部とか、沖縄の戦争体験などを、聞けるうちに聞き、ちゃんと文字にして残しておきたいものです。

中学の社会科の中沢先生は、退職される最後の授業で私の質問に答えて、「戦争は、相手の国民や国を信じないから起きる」と話していました。これからも戦争のない世の中であってほしいと、心から願っています。

（体験の聞き書き・高橋美加子さん）

○前回の体験①（№321）の中で誤りがあり、お詫びします。

○昭和20年2月16日の原町空襲は東北で初の空襲ですが、原町紡織工場（現・国見団地）で負傷した国民学校の鈴木小松先生（39）は本町の宇津志外科医院（現・高野眼科医院）に運び込まれ、星スズイさん（22）も宇津志外科医院に運ばれて死去。また大原ヨシ子さん（19）は原町紡織工場から渡辺病院に運ばれ、相馬商業学校（現・原町高校）生徒の斉藤和夫さん（17）の4人がこの空襲で死去されました。

○二上英朗著『原町空襲の記録』（P9～）、南相馬市発行『原町市史11』（P207～）に大変詳しく記述されていますが、事務局の不確認でした。二上さん（会員）からのご指摘やご教示に感謝申し上げます。